

【アンケート集約結果】

- 日時 平成23年9月7日(水) 14:00~17:00
- 会場 ホテルセンチュリー21広島 2階 フォルザ
- 主催 総務省中国総合通信局、公益財団法人ちゅうごく産業創造センター、中国情報通信懇談会
- 参加者数/アンケート回収数 75名 / 34名 (回収率 45.3%)

1 各講演の内容はいかがでしたか。

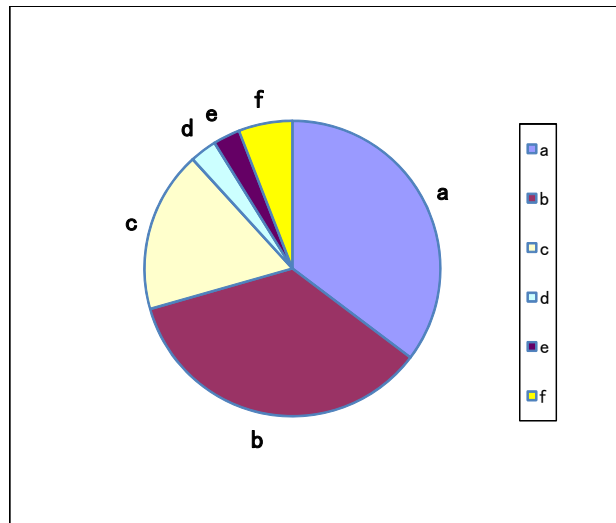
- a. 大いに参考になった b. ある程度参考になった c. 可・不可なし
 d. あまり参考にならなかった e. よく理解できなかった f. 無回答

(1) 講演1：『患者QOL (Quality of Life) 向上のための医療機器ケーブルレス化を目指す
 ボディエリアネットワーク (BAN)』

講師：富士通株式会社 事業企画本部 ネットワークイノベーションセンター
 テクノロジーフロンティア室 シニアマネージャー 坂本 誠 氏

【評価】

番号	回答数
a	12
b	12
c	6
d	1
e	1
f	2
計	34



【その他ご意見】

1. BANの標準化策定に向けた課題、可能性を垣間見ることができ、大変参考になりました。
2. 携帯電話がさらに高速化になる。700MHz、900MHzの利用も将来的に進む中で病院内での携帯電話の利用は医療テレメータに影響を及ぼすか！？
 病院の医師は携帯電話を持ち歩いている様に思えるが、利用制限が多い病院があるのが不思議です。
3. 一部専門用語があり、無線機器会社の方でなければ難しい部分があった。「何をつなぐのか。」といった所を増やした方がよかったのではないか。
4. 自分にとってなじみのない話題だったが、よく理解できた。
5. 中盤から電波干渉 etc 専門的な知識がなく、わかりませんでした。
6. 院内アクセスや400MHz 医療テレメータに関する説明が興味深かった。
7. 少し難しかったです。
8. 専門用語が多く少しむずかしかった。
9. 患者が自由に動き回れるシステムへの応用はできないか。
10. BANの伝送距離（3m未満）が非常に気になった。消費電力は低いので伝送距離（10m以上）＋突発性通信が実現できればよいと思う。Bluetoothはペアリングに時間がかかる。

11. 3mの範囲内となるとベッドサイドモニター等のケーブルレスに限定される。
 - (1) ベッドサイドのコードレス
 - (2) ベッドとナースステーション（院内コードレス）
 - (3) 病院から病院又は在宅と病院
 ケースによって送信方法が変わるように思う。（電波法との関係）
12. 医療分野におけるモバイルソリューションの今後の発展に期待しています。
13. 内容が専門的で分かりずらかった。
14. 内容が高度で難解な部分が多かった。
15. BANについては知識がなかったので、詳しい内容がためになった。
16. BANの知識がよく整理できた（聞きかじりの知識習得だったので）。普及のために大きな課題が複数あることが理解できたが、具体的な医療機器をスライドで示しながら説明を加えた方が理解されやすかったと思います。

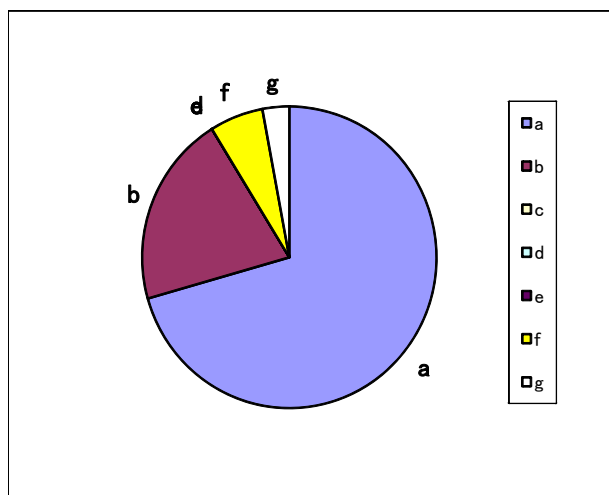
(2) 講演2：『遠隔医療健康管理サービス事業化のための技術開発と市場開拓』

講師：医療法人康誠会 東員病院・認知症疾患医療センター 院長 村瀬 澄夫 氏
 （日本遠隔医療学会初代理事長、信州大学元教授）

【評価】

番号	回答数
a	24
b	7
c	0
d	0
e	0
f	2
g その他	1
計	34

その他は、80% との回答



【その他ご意見】

1. DtoPを主とした現実のインフラに基づいたお話を頂き、事業化のニーズとシーズのヒントを多く頂戴しました。
2. 困っているところに仕事があつて、困っている人が多ければ事業化になると思っています。現在、大学放射線科のご支援を受けて遠隔読影事業を行っています。ですが放射線科医師が読める数以上の事業にならず、次の事業を模索しています。高度画像圧縮技術を持った企業との連携でモバイル遠隔診療システムを検討中です。訪問看護での活用を考えていますが、診療報酬が取れるか採算が取れるかが不安なところです。この技術を医療情報バックアップへの活用を検討中です。
3. 現在取り組んでいる事業化の問題について、色々な面からの視点で説明して頂いたと思います。地域連携を推進する立場で見た場合のポイントがとても参考になりました。
4. たくさん例示をいただき、よくわかるお話でした。
5. 非常によかった。
6. 弊社におきまして、自治体と住民をつないでいるCATV網を使って、医療、福祉、健康管理に関してお役にたてないかと考えており、大いに勉強になりました。

7. 在宅医療に関するトレンドが分かった。ニーズと市場の例が分かりやすかった。
8. 具体的で分かりやすかったです。
9. 何故サービスが進まないのか？市場原理・法制度なのか。
10. 色々な経験を踏まえて話をしていただき良いヒントになった。
11. 講演1のケーブルレス化のように患者に大きなメリットがあれば自然に普及すると感じました。
12. まとめにあった様にコストが課題だし、利用者が負担とならないシステムは何かよく考える必要があるのでは。
13. 見守りの件非常に参考になりました。高齢者の方が見られているという意識があった場合、多少影響があったのではないかと思います。
14. 非常にわかり易かった。遠隔医療に必要なデバイス等も具体的に説明があったので大変参考になった。
15. 在宅のモニタリングが中心となると利用できる患者さんも限定される。特に軽症者が中心になるのでは？
16. 現在あるクラウドサービスやスマートフォンをうまく利活用できないかと考えられているので、非常に参考になった。
17. 良く理解できた。
18. 使う側からすると継続する事が負担にならない（リテラシー、手間、経済的に）様な方式が理想。しかしそれでは利用者が増えても事業になりにくい側面がありむずかしい問題と思いました。
19. 医療福祉のケースに限らず市場の発展、拡大の話がよかった。
20. 遠隔医療機器市場はこれからの分野だと感じた。
スマートフォンの普及とともに良い「サービス」との連携が必要。

2 遠隔診療に関して、今後実現したら良いとお考えのことをお書き下さい。

1. スマートフォンの活用。
2. 地域医療の分担の強化につながる利用。
3. フレームワークの統一。
4. 中山間地域の少子高齢化がすすんでいる地域とかかわらせていただいています。早く遠隔診療が広まることを望んでいます。
5. リアルタイム生活リズムアドバイス（1週間、メール配信、アラーム等）投薬、食事、ねむりのタイミング等。
6. グループホームや小規模ケア提供事業者との連携。
バイタル管理やかかりつけ医或いは高度医療までつなげる。
7. 薬の対面販売→ネット販売可能とするために遠隔のしくみを使っては？
8. さまざまな病院、地域で別のシステムで遠隔診療を実施している印象を受けるので統一化が実現できれば事業化も進むと思う。
9. 離島等を対象とした手術にロボットを遠隔操作して実施できるのでは？海外では一部実施されていると聞く。
10. 遠隔で診療するケースとして病院が近くにないことが考えられますが、薬が必要になったときに患者はどう対応したらよいか考える必要があると思います。
11. ビジネスとしての遠隔医療と法律のギャップを是正する方策を考えてほしかった。（ポイント制、保険診療との関係）
12. 地域への導入に関して、積極的な医師会がどんどん出てくれる事が望ましい。
13. 個人的には病院に行く一番の理由は投薬を受けるので、診療に関してはあまり想像がつかない。

3 次回取り上げてほしい医療福祉関連の講演テーマや講演者についてお書き下さい。

1. 村瀬先生のDtoDについてのご意見を伺えればと思います。
2. 医療情報の標準化。メーカーごとに違うのでデータ連携やIT化が進まない。
3. 高齢者支援(低コストで運営できるもの)。
ソーシャルツールの活用。
4. 地域医療再建や補助金との関係。
5. クラウドを使った遠隔診療。
6. 今求められているものが何なのか医療現場の声をきかせていただきたい。
7. 訪問看護
電子カルテ
カプセル内視鏡
3D画像
DICOM
総合特区(法律上の課題)
8. 実験ではなく継続して行われている方のお話が聞きたいです。
9. 海外ではどのようなシステムで遠隔医療が流通しており、どのようなデバイスが使われているのか。
10. 医療福祉現場での書類のICT化について(様式の標準化)
11. 院内無線LANの最適規格。
Webカメラの活用(徘徊、安否確認等)
12. 遠隔医療・福祉サービスの事例。
遠隔医療・福祉サービスの方向性(制度)。
医療福祉事業者の取り込みについての講演。

4 その他ご感想を自由にお書き下さい。

1. 医工連携、官工連携の状況報告などのセミナーがあれば！
2. 大変参考になりました。
3. 私は参加が2回目ですが、開発が各メーカー別や各省庁別予算で実施されている為、進み具合が遅いように思う。(得意分野の違いと思うが)共同開発に切り変えると相当前進すると思われる。
4. 医療福祉の分野について、これまでほとんど知識がないが、これからは積極的に情報を集めたいと思う。